

【地歴公民科】

1 今年度の研究について

(1) 教科で取り組んだ授業改善

ア 「主体的・対話的で深い学び」に向けての取組

第1学年の新カリキュラムの授業を中心に、主体的に学びに向かう態度を評価する試みを行った。公共では、授業の前後で自分が学んだことを確認させるなどして、自らの学びを時間ごとに見直しさせた。

また、その他の学年でも、2年生日本史Bなどでは考査問題にも発想力と論理性を試す思考問題を取り入れ、生徒により深い思考力・活用力を求めた。

イ ICTを活用した授業の取組

第1学年を中心に、評価対象となる提出物の増加に対応するため、Microsoft Teamsや、ロイロノートスクールを活用した、生徒とのやりとりを取り入れた。

また、公共や歴史総合や世界史Bなどの授業では、プロジェクターを用いて画像資料による授業内容の拡充を図った。

ウ 今年度の取組の成果と課題

自らの学びを見直しさせることは、評価の対象として取り扱うことが難しい点が課題である。しかし、評価と切り離して考えれば、生徒自身に「今日は何を学ぶか設定させる」「わからなければ調べさせる」試みは、十分に主体的な授業参加をうながすことができると考えている。

思考問題については、複数教員間で採点基準を統一することが難しい。そのため、ある程度は基準のブレは割り切り、担当教員ごとの基準となることを生徒に説明する方がよいと考えられる。

ソフトウェアによる生徒とのやりとりは、今後の、考査に頼らない評価のあり方と非常にマッチしており有効であるが、生徒の家庭における時間を各教科が圧迫することが懸念される。

(2) 観点別評価の検討について

今年度は、考査問題を思考問題・知識問題に分け、主体的に学びに向かう態度については、授業の振り返りや提出物による評価とした。

思考の観点について考査で測ろうとすると、どうしても採点時間が膨大に必要になり、限界があるように感じる。一部で、考査と別にレポートを課す教員もおり、そのように採点時間の分割をするなどの工夫が有効だと感じた。

主体性の観点については、客観的基準を作るのは現実的ではないと感じた。評価を形式上のものにしないためにも、教員の多忙感を解消するためにも、「この観点が大切であること（着眼点のよさ、など）」を生徒に示し、具体的な「どうなればA・B・C」といった規準は不要ではないか。

(3) 研究授業の結果分析

ア 研究授業のねらい（仮説）

今回の研究授業では、①授業の前に「今日のテーマに対する疑問・気になること」を、授業の後に「最初の疑問に対する答え」を記述させること、②授業の前半部を知識の授業、後半部を思考の話し合いとする試みを行った。

①については、授業を受動的に聞く状態から脱却し、自ら学び取ろうとして授業を聞く態度を養うことを目指した。この能力は、提出物などで「より深い学びにつながる疑問を立てることができるようになったか」を見ることで評価できると考えている。

②については、思考力とともに他者に思考を伝える表現力を養うこと、また、社会科の能力とは、暗記力ではなく活用力であることを実感させることを目指した。この能力は、考査問題やレポートで模範解答のない論述問題を解答させることで評価できると考えている。

イ 研究授業実施の結果（仮説の検証）

今回は主に①の仮説の検証を目的とした。授業終わりの記述内容や取り組み方を見ると、従来の授業より前向きに主体的に授業を受けているように見受けられる。客観的に、その資質を測るすべは考えられていないが、回数を重ねるごとに生徒の疑問は、着眼点が良いものになっているように見取ることができた。

ウ 研究授業の成果と課題

(ア) 研究授業の成果

今回の研究授業で実施した、「授業前に単元の内容について疑問点を挙げさせる」「授業後に解消しなかった疑問を調べさせる」活動は、社会の新カリキュラム全体で活用できるフォーマットだと考えている。ただし、現状ではこの活動を授業とは切り離して理解してしまっている生徒もいるため、いかにして疑問を学習にうまくつなげていけばよいか、考えてみたい。

(イ) 研究授業の課題

今回の研究授業では、上記のとおり授業に向かう主体性を伸ばすことを目指した。何も考えずに授業にただ入るよりは、一定の効果を得られていると考える。しかし、この方法では、例えば生徒が全く事前知識のない分野についての学習単位では、そもそもの疑問がもちづらいという問題点もある。そのため、今後は初出の単元については、はじめに定義を説明した上で、生徒に疑問を考えさせることで主体的な学びを行わせる、という新たな課題を持って授業をつくりたい。

2 来年度の研究に向けて

(1) 教科として取り組む授業改善について

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

上記のとおり、授業の導入部と振り返りの働きかけにより、主体的な態度で授業を生徒が授業を受けることが期待される。

また、「探究」科目において、折に触れて生徒には模範解のない問いを考えさせることで、社会科的なものの見方・考え方をつけることが期待される。

イ ICTを有効に活用した授業の実現に向けて

ICTは、生徒用をタブレット用いた、振り返りの集約等を積極的に行うことで、より細やかな、主体性の学習改善評価が可能になることが期待される。

(2) 観点別評価の具体的方法、その後の指導への活用について

上記のとおり、授業の前後に学習したい疑問点を記述させることで、主体的に学びに向かう態度を評価し、よりよい着眼点をもたせるような指導へつなげられる。